※記載例を参照の上、ご記入ください。

（様式第3号）

企業・団体名（サントリープロダクツ株式会社　サントリー天然水北アルプス信濃の森工場）

SDGs達成に向けた具体的な取組（要件２）【R5.11.30様式改定】

	カテゴリ	チェック項目	取組レベル	【赤該当】の場合選択入力	【予定】の場合選択入力	具体的な取組 （県などの取得証証があれば、併せて記載） （【赤該当】を選択した場合はこちらに理由記載）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	人権・労働	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ人権方針」を制定し、加えて「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、「5.ダイバーシティ・人権尊重とより良い労働環境の実現」に「5.2 差別・ハラスメント」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3							16.1 16.2 16.7	
2		【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ人権方針」を制定し、加えて「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、「5.ダイバーシティ・人権尊重とより良い労働環境の実現」に「5.2 差別・ハラスメント」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。またホットラインを設置し従業員アンケートの実施とフィードバックを行っている。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8									16.1	
3		【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本			労働組合を結成しており、労使双方において毎月、労働時間の確認が行われている。毎日の労働時間データは記録・管理されており、このデータをもとに工場幹部が下記3点でメンバーの適正労働に向けた業務管理を行っている。 ①年間の時間外労働時間は360時間以下 ②時間外労働40時間を超えない/超過月は年間2回まで ③有休8日間以上の取得								8.5 8.8										
4		【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ人権方針」を制定し、加えて「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、「5.ダイバーシティ・人権尊重とより良い労働環境の実現」に「5.2 差別・ハラスメント」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。				4.4				8.7 8.8		10.2 10.3								
5		【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本			2010年2月に制定した「サントリーグループ生産研究安全衛生基本方針」に則り、人の健康と安全はすべてに優先するという考えのもと、最優先課題として労災ゼロ化活動に取り組んでいる。工場内では、危険な作業を抽出し、安全に作業できるよう設備改造や作業前KY(危険予知活動)の実施、階層別安全教育を実施している。加えて、定期的に工場幹部を中心に作業現場に対して安全パトロールを行い、不安全行動・不安全箇所の抽出と是正指導を行っている。			3					8										
6		【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本			定期的な自己ストレスチェックのほか、「メンタルヘルスハンドブック」を社内で制定し、従業員への周知とマネジャーによるラインケア教育も行い、早期発見できる体制を整えている。特に新入社員や転入者・場内異動者に対しては、社外カウンセラーとの面談を必須として、メンタル不調の早期発見に努めている。また安全衛生委員会(月1回)への産業医の出席してもらっている。			3															
7		【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ人権方針」を制定し、加えて「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、「5.ダイバーシティ・人権尊重とより良い労働環境の実現」に「5.5 風通しの良い職場風土」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。LGBTも含めたセクハラやパワハラなどのハラスメントに関するeラーニングの実施、LGBTに関する相談窓口の解説、障碍者雇用も実施している。					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3								
8		【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本			研修制度、他事業所交流会の開催し 社内外で開催されるおすすめの研修を従業員に提示し、複数年にかけて取得計画を作成している。				4	5.5			8	9									
9		【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本			各メンバーの雇用形態・資格を明確にして。明確な評価フィードバックを実施。業務内と勤務時間の適切な管理を実施している					5.5			8.5		10.2 10.3								
10		【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ			健康診断・人間ドックの実施。 健康サイト(Health-Ma)の運営 必要に応じて、産業医面談の実施。 安全衛生委員会(月1回)への産業医の出席			3					8										
11	環境	【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本			廃棄物の分別と法令に則って適切に処理、管理している。また、廃棄物を有価物として回収・再利用を行っている。廃棄物処置業者は、契約前に事前確認を行い、契約後も定期的な視察を実施して適切に処理されているかを確認している。											11.6	12		14.1			
12		【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本			環境保全部会を組織して、 エネルギー使用量を月次で管理している。							7.3						13				
13		【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本			自工場のCO2排出量は実質ゼロの認定を受けているが、オフセット比率を下げるためにバイオマスボイラーによるCO2の削減量を月次で管理している。							7.2 7.3					12.4	13.3				
14		【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本			定期的にボイラーばい煙測定・フロンガス量の把握を実施している。			3.9			6.3					11.6	12.4					

	カテゴリ	チェック項目	取組レベル	【未該当】の場合選択入力	【予定】の場合選択入力	具体的な取組 （県などの取得証証があれば、併せて記載） （【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
15	環境	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本			工場排水の法令遵守はもちろんのこと、河川の水質モニタリングを定期的に行い河川水質への影響を監視している。						6.6									15		
16		【３Ｒの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本			工場建設時から省エネ設計を徹底しており、エネルギー使用量を削減と熱回収再利用設備の技術導入をすることで従来工場比の約50%のエネルギーを削減している。フードロス削減活動の一巻として地元企業の食品廃棄物の再利用をしている。												13		14.1			
17		【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ			サントリーグループとして『水理念』を2017年に策定し、水資源の状況に応じた取り組みの開発、推進を行っている。工場においては使用箇所ごとに必要な水質レベルを設定し、カスケード（多段階）利用といった高度な循環再利用を行い、水使用原単位で業界トップレベルを達成している。環境保全部会を組織して、水の使用量を月次で管理している。また、井戸水の可変揚水制御により井戸水を必要最小限しか揚水しない方策をとっている。						6.4 6.6											
18		【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ			ISO14001を取得している他、サントリーグループ環境方針を定めている。 また、PAS2060も取得しカーボンニュートラルを証明している。			3.9			6	7					12	13.3	14	15		
19		【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ			ISO14001、PAS2060取得のほか、省エネ法等に付随する環境パフォーマンスデータを外部に公開している。												12.6					
20		【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ			場内で使用する熱エネルギーはバイオマスボイラーから調達し、電気エネルギーはCO2フリー電力と太陽光発電設備から調達しており、工場内の多くのエネルギーを再生可能エネルギーで賄っている。							7.2						13				
21		【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ			バイオマスボイラーの燃料である木質チップは近隣の間伐材をしようしており、電力は太陽光発電を設置しているためサステナブルなエネルギーサイクルを実現している。												12.2	13	14	15		
22	公正な事業慣行	【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、『2.誠実・公正な活動』に「2.3 腐敗行為」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。																	16 16.5	
23		【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、「2.誠実・公正な活動」に「2.3 腐敗行為」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。																	16	
24		【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、「6.情報と資産の管理・活用」に「6.4 知的財産」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。								8.2 8.3	9									
25		【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、「6.情報と資産の管理・活用」に「6.4 知的財産」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。																	16	
26		【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ			社内製品で紛争鉱物の取り扱いはしていない。 サステナブル調達のガイドラインを定めている。																16	
27		【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ			サントリーグループサステナブル調達基本方針にてガイドラインを定めており、安心安全な原料の調達とともにバリューチェーン全体でGHG排出量削減や人権などの環境・社会課題の解決に取り組んでいる。					5			8		10		12	13	14	15	16	17
28		【パートナーシップ構築宣言】（R5.9.5～追加） ・中小企業庁等が推進する「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表している	基本			サントリープロダクツとしてサプライチェーンの取引先の皆様や価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を進めるため、パートナーシップ構築宣言を行っている。			3					8	9	10							17

		チェック項目	取組レベル	【非該当】の場合選択入力	【予定】の場合選択入力	具体的な取組 （県などの取得証証があれば、併せて記載） （【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
29	製品・サービス	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本			サントリー品質保証方針「All for the Quality」を設け、工場においてはISO9001認証・FSSC22000認証の取得、TPMの導入を行っている。また、原料となる水については定期的に研究所に送り、分析・検査を行っている。			3.9									12.4					
30	製品・サービス	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本			サントリー品質保証方針「All for the Quality」を設け、工場においてはISO9001認証・FSSC22000認証の取得、TPMの導入を行っている。また、お客様から情報を頂戴するために、グループ全体として「お客様センター」を設け、より良い製品やサービスに反映できるような体制を整えている。 工場内では食品安全チームを発足しており、より品質をよくする仕組みが運営されている。									9								
31	製品・サービス	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ			工場CO2排出量の実質ゼロ化に成功し、CO2排出量を約9000ton/年の削減して環境不可の大幅な削減をしている。また、電力は近隣のCO2フリー電力を使用しており、地産地消のエネルギーサイクルを形成している。						6						12	13	14	15		
32	製品・サービス	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ			蒸気環境負荷の低減と地域共生活動により、サステナブルな生産モデルを実現している。 社会全体の持続可能性に向けた取り組みの推進に寄与すると考えている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
33	社会貢献・地域貢献	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本			市の条例に沿って、水、土壌、騒音他、事業が地域に与える影響を監視等対応実施している。				4					9		11	12		14	15		17
34	社会貢献・地域貢献	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ			地域の皆様との「相互コミュニケーション」強化を掲げ、地域のお客様との交流の場を作る活動をしている。 具体的には、信濃フェスというサントリー信濃の森工場独自のイベントを開催し、近隣のお客様を中心に工場に来場いただき、工場のライン見学等を実施した(定員制)。また大町市の夏祭り・やまびこ祭りにサントリーとして参画している。				4							11			14	15		17
35	社会貢献・地域貢献	【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ			バイオマスボイラーに使用される木質チップは近隣の間伐材を使用しており、工場内で使用するCO2フリー電力も近隣の電力を購入しているため地産地消にこだわったエネルギーサイクルを実現している。								8	9		11	12	13				
36	組織体制	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本			経営理念、経営目標、ビジョンを社内で共有しており、各事業所にて事業所別の目標が建てられている。また、四半期ごとのマネージメントレビューにおいて、目標達成の度合いが確認されている。								8	9								17
37	組織体制	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本			サントリーグループとして、「サントリーグループ企業倫理綱領」を定め、「2.誠実・公正な活動」に「2.1 法令遵守および規範・文化の尊重」を設けている。 役員・従業員には少なくとも年に一度はeラーニング等で教育を行い、該当事案の有無を確認している。またホットラインを社内・社外に設けている。																	16	
38	組織体制	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本			サントリーグループ環境方針が定められており、受付窓口としての「お客様センター」、対応する部署として本社に「サステナビリティ経営推進本部」他が設けられている。																16	
39	組織体制	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本			ステークホルダーエンゲージメントを通じてステークホルダーのニーズを把握し、高い信頼性や協力関係を築いている。																16	17
40	組織体制	【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ			サントリーグループ全体として、2015年4月に「グローバルリスクマネジメント委員会(GRMC)」を設置した。このGRMCのもと、各事業会社にリスクマネジメント委員会やリスクマネジメントチームを設置している。また、内部・外部監査を実施し、各種リスクマネジメントを行うプロセスが整備されている。																16	
41	組織体制	【社会的責任】 ・ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ			CSRの考えに基づき、本社に「サステナビリティ経営推進本部」他が設けられており、社会的責任を理解し推進している。取り組み内容は「サステナビリティ・CSRレポート」にて公開されている。																16	
42	組織体制	【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ			安全衛生委員会を発足し、毎年避難訓練を実施している他、安否確認システムを導入している。 また戦略・対応手順が定められており、社内のイントラネットに掲載されている。									9		11		13 13.1			16	
43	組織体制	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ			グループとして長期視点での後継者育成がされており、必要な対策が取られている。								8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組		具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

【記載留意事項】
・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されていることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取組む予定のものであっても、その取組を「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前の【予定】を選択入力してください。）
・【非該当】欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合に選択入力し、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。
・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載するほか、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、できるだけ、その旨を併せて記載してください。
（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、女性の活躍推進企業知事表彰、男女共同参画推進県民会議表彰、障がい者雇用優良事業所等表彰、信州豊かな環境づくり県民会議表彰、長野県技能評価認定制度、ＮＡＧＡＮＯものづくりエクセレンス認定、信州福祉事業所認証・評価制度、信州リサイクル製品認定制度、信州の環境にやさしい農産物認証制度、長野県原産地呼称管理制度、信州おもてなし大賞、えるぼし認定、循環型社会形成推進功労者表彰、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）

○ この「要件２」は、ISO26000（※１）、RBA（Responsible Business Alliance）（※２）行動規範等を参考に、非財務情報（SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項）について整理し作成
○ 「SDGsとの関連性」については、各項目について、169のターゲットに直接的に当てはまる場合は**黒字**、　間接的（結果として）に寄与する17ゴールが当てはまる場合は、**赤字**で番号を記載
○ 企業が県へ申請する際には、チェック欄へのチェックとあわせ、「具体的な取組」へ取組内容を記載
※１…組織の社会的責任に関する国際規格　　※２…労働環境、製造プロセスの環境負荷に対する責任を持っていることを確認するための規定